

み出る物也、

〔碧山日録〕應仁戊子年〇二正月十七日戊寅西客某來款話次日農之後州出香酒名練貫其性濃醇雖

歷萬里於數旬之間其味不變故至中州者多載之云余曰橫州古辣泉之所釀其色淺紅其味甘美可  
以致遠雖行烈日中不至壞也豐釀蓋此類乎客喜飲者也聽而亦喜焉余只說相似之好而不  
客遂不興而去余又不爲意也

〔筑前續風土記二十七〕博多練酒其色練絹のごとく成ゆへに練酒と稱す其しぼりてこしたる

を練酒といふ糟ともに用るを實練酒と云此酒いつの世より始めしと云事を知らず牡丹花宵  
柏が三愛記に酒は九州の練ぬき加州の菊の花天野の出群なるを求と書り宵柏は大永七年に  
死す元祿十五壬午年迄百八十四年元〇以下十三字一本作賣に及べり宵柏が時此酒既に世上  
に名有猶其昔より有て久敷名産なるべし古へハ博多にて小田氏が家のみに是をかもす今は  
製する家多し就中篠原氏が家に釀するを上品とす其味彼は大様相似たりと云共久きに堪る  
を以其製の精き事を知る此酒世にありて他邦にて甚珍賞す他州の酒家此酒を學びかもすと  
いへ共其味甚劣れり博多の産に似ず國君より毎年十一月江戸に獻せらる

〔庖厨備用倭名本草十二〕釀酒

筑前ノネリ酒其ノ色白クコクチバク練帛ヲミルガ如シ故ニ名ヲ得タリ

〔雍州府志六〕白醴酒今所々製之元倣筑前博多練酒而釀之其色白如練故稱練酒其中油小路

出水通北并衣棚三條北酒店之製特爲美

〔明和新増〕京羽二重大全三〕練酒所

丸太町麩屋町西へ入

尾道屋次郎右衛門

〔料理物語料理酒〕ねりざけ玉子に白ざたうを入冷酒にてよくくねりあはせかんをいたし